

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ア	魅力ある学校環境の充実	
	①	魅力ある教育環境基盤の整備	
	1	島への定着促進に向けた特色ある教育づくりの推進	
事業名	しま留学生里親助成事業【新規】		
担当課名	学校教育課	所属長名	中村 孔一
関係課名			
事業の目的	積極的な目的意識や意欲を持った高校生に学習の場を提供し、充実した高校生活を送ってもらうことを目的とした長崎県の離島留学制度を活用して、高等学校に留学する離島留学生に対する支援及び受け入れ保護者となる町民に対し支援を行う。		
事業の内容	高等学校に留学する離島留学生に対する支援及び受け入れ保護者となる町民に対し補助金を交付し支援を行う。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	なし		
課題（できなかったこと）	長崎県の離島留学制度の充実 受け入れる保護者（里親）の確保		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	高等学校の離島留学制度については、長崎県の事業であるため、県に事業の推進をお願いしていく。 ただし、小中学校の児童生徒の里親制度の導入について、奈良尾地区、若松地区で平成29年度からの事業実施に向けて検討していくことにしている。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ア	魅力ある学校環境の充実	
	①	魅力ある教育環境基盤の整備	
	1	島への定着促進に向けた特色ある教育づくりの推進	
事業名	専門学校（養成所）立地・誘致事業【新規】		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳哲也
関係課名			
事業の目的	専門学校等の誘致及び整備を促進し、若年層の人口増加を図り、活力ある地域づくりを図るため、町内への専門学校等の設置を推進する。		
事業の内容	町内に専門学校等を設置する学校法人等に対し、施設整備に必要な工事費、学校開設前の準備に要する経費を補助する。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	H28年度においては、県内離島の他市における福祉系専門学校設置の状況等について情報収集を行うなど、可能性を検討する。また、地方創生推進交付金の補助対象にならないことから、財源の確保についても検討する。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	2	愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする	
具体的な施策	ア	魅力ある学校環境の充実	
	①	魅力ある教育環境基盤の整備	
	1	島への定着促進に向けた特色ある教育づくりの推進	
事業名	奨学資金貸与事業【拡充】		
担当課名	学校教育課	所属長名	中 村 孔 一
関係課名			
事業の目的	経済的な理由で高校・大学などに修学が困難な者に対して学資の貸付けを行っている奨学資金貸与事業において、若者の定住促進を図るため、町内への居住など一定条件のもと奨学生の返還額の一部又は全部を免除する。		
事業の内容	町内への居住（原則5年以上）、就労、町税の未納無し等、一定条件のもと奨学生の返還額の全額を免除する。		
事業の実績・取組状況	新規拡充案件のため、H27年度の拡充実績は無し。 参考 平成27年度 新規貸与者 10名 平成27年度末 貸与者総数 33名		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	平成28年度に事業計画を作成し、平成29年度以降の実施を目指す。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	2 愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする
具体的な施策	ア 魅力ある学校環境の充実
	① 魅力ある教育環境基盤の整備
	1 島への定着促進に向けた特色ある教育づくりの推進
事業名	SKG20プロジェクト事業～「地域課題」に向き合うキャリア教育～【新規】
担当課名	学校教育課
所属長名	中 村 孔 一
関係課名	
事業の目的	地域を担う次世代を地域で育てていくため、身近な地域の課題に関わる豊かな体験を通じて、人間観・社会観・職業観・生活観など地域に対する生徒の愛着や当事者意識を高め、将来、地域課題の解決に必要な広い視野や高い専門性を身につけ、直接的または間接的にふるさとの持続可能性向上のために貢献できるよう、小・中・高校教員が連携するとともに保護者や地域住民の参画による地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す。
事業の内容	子どもたちが地域を知り、地域を学ぶ活動を小・中・高校が独自にそしてお互いが連携しながら地域と協働で取り組むことで、地域を愛し、将来にわたって地域を大切に、地域の発展のために努力しようとする心を育てる。
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。
成果（できたこと）	—
課題（できなかったこと）	—
担当課評価	—
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	小・中の学社連携担当の教職員及び各高校の担当者に協力を得ながら、共通理解をとる場を設定。
委員評価	次年度以降に評価

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	2 愛着と誇りをもって住み続けられる暮らし・人づくりをする
具体的な施策	ア 魅力ある学校環境の充実
	① 魅力ある教育環境基盤の整備
	1 島への定着促進に向けた特色ある教育づくりの推進
事業名	学校地域連携（職場体験・インターンシップ）事業【拡充】
担当課名	学校教育課
所属長名	中 村 孔 一
関係課名	
事業の目的	生徒の職業意識を高め、将来の生き方や進路を考えるため、自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供し、目的意識を持って学業生活に取り組む姿勢の確立や学習意欲の向上に努める。
事業の内容	職場体験学習、インターンシップの学習を推進することで、夢を持ち、それが憧れとなり、そしてそれが志として、自分の将来について深く考えその実現のために取り組もうとする心を育てる。ひいては、本町の将来のために自分に何ができるかについて考えさせる。 なお、学校と地域事業所・関係機関の連携強化（職場実習協力事業所の登録制度）や学校・生徒と受け入れ事業所とのコミュニケーションの場（発表会）の開催など、特色ある職場体験、インターンシップの学習プログラムを構築する。
事業の実績・取組状況	町内の全中学校で職場体験学習を実施している。また、小学校においても、社会科、総合的な学習の時間等の社会科見学、聴き取り等で先人、先輩の思いを知り、共感する学習を進めている。
成果（できたこと）	全中学校での職場体験学習とその学んだことの生徒間の共有
課題（できなかったこと）	中高間の職場体験、インターンシップの活動内容の共有
担当課評価	B 全中学校が、各学校の実状、地域の実態に応じた職場体験学習ができた。その際、生徒の夢、憧れを持って、自分自身の志へと高めていく指導ができています。また、地域で真剣に働いている方々の思いをくみ取ることができた。また、各学校、発表会等でその実績の公開ができた。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	学校と地域事業所・関係機関の連携強化（職場実習協力事業所の登録制度）や学校・生徒と受け入れ事業所とのコミュニケーションの場（発表会）の開催など、特色ある職場体験、インターンシップの学習プログラムを構築していく。
委員評価	B 現行の中学校からの職場体験では遅すぎるように感じる。現在、高校生が地域探究学習やパブリック・ワーク等で実感として島の大切さや課題を学んでいるが、小学校から職場体験をする機会を増やし、各年代に応じた体験をさせることが必要ではないか。郷土愛を醸成するため、今後は小・中・高を繋ぐ一貫した取組みを期待する。

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。